

## 令和7年度 第8回藤沢市市民活動推進委員会 議事概要

### 1 日 時

2026年(令和8年)2月10日(火)午前10時

### 2 場 所

藤沢市役所 本庁舎8階 8-1会議室

### 3 出席者

(1) 委員 10人

坂井副委員長、大高委員、鍛地委員、永山委員、新實委員、西村委員、笛木委員、細沼委員、水戸委員、森田委員

(2) 事務局 6人

福田部長、木村参事、黒澤主幹、二宮課長補佐、緒方上級主査、土倉職員

(3) その他 3人

鈴木市長、傍聴者2人

### 4 議題等

○答申

(1) 令和7年度市民活動推進施策の実施状況について

(2) 令和8年度市民活動推進施策の実施計画について

(3) その他

### 5 概 要

○答申

副委員長から鈴木市長に答申書が提出された。

○開会

○委員長欠席のため、藤沢市市民活動推進条例施行規則第5条第3項に基づき、副委員長が開会を発声。事務局から、委員会成立の報告が行われた。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

#### 議題(1) 令和7年度市民活動推進施策の実施状況について

○事務局から、令和7年度市民活動推進施策の実施状況について説明が行われた。

○続いて、委員から令和7年度の取り組み結果と成果について説明が行われた。

○委員から（発言要旨）

（委員）

実にいろいろな活動が、それぞれの施策の中で行われてきたんだと私としては感じながら伺った。まだ3月の分が残ってるのかなというところ。

ボランティアポイント制度の準備を進めた話があった。

導入はいつ頃目指しているのか、換金性はないという話だが、このポイントはどういうふうに生かされていくのか。チーム FUJISAWA とは特に関連がないのか。

（事務局）

チーム FUJISAWA2020 のみのボランティアポイントで、換金性はないもの。開始時期は、早ければ今年度中、遅くても来年度当初には行っていきたい。内容としては、ボランティアの楽しさ、やりがいの一つとして導入、実際にポイントが付与されたら、ボランティア交流会で発表したり、楽しみ、やりがいを見出すための一つのものとしてボランティアポイントとして行うもの。

（委員）

チーム FUJISAWA の取り組みであるということですね。特にこのボランティアポイントを持っていると何らかのサービスを受けられるということではなく、励みにしていただくということ。

（事務局）

サービス等はない。交流会での表彰など、考えているのは啓発グッズをポイント数に応じてノベルティグッズとしてお渡しするなど、考えている。

（委員）

チーム FUJISAWA の会員数が7, 200人、計算してみると43万人の都市、藤沢の多分6.5人に1人ぐらいは登録している。結構大きな団体になってきていると思うが、今のアクティブユーザー数。あとどのくらいを目指しているのか聞きたい。

（事務局）

アクティブユーザー数、数値的には出てないところもあるが、実際には応募してくるニックネームだけを吸い上げたりすると、当然そんなに多くはない。7,000人全員があるとは限らない。目指すところだが、ボランティアを知ってもらうきっかけとして、市民まつり、産業センターの祭りなど、かなりの方が登録しているので、募集团体を増やし、マッチングを増やしていくのが、これからだと思っている。

（事務局）

1回目を見てみると何回年間で活動しているか、ニックネームから名寄せをして検証をしたが、参加しても1回にとどまってしまうケースが多い。

ただ、2回やると3回目4回目に繋がっている。データで確認ができていますので、なるべ

く2回目を作るところに、重きを置いて取り組みを進めていきたいと考えている。数的な目標も持ちながらやっていかないといけないと思っているので、この辺りについてもデータを見ながら適切に管理していきたいと思う。

(事務局)

登録いただく際に連絡先を頂戴しており、様々な直接ボランティアをしていない方もいるが、市民活動に関する情報提供というところで、こういう方々にこういう活動をしてるんだということを様々な情報提供を通じて、市民活動の推進に繋がっている。こちらからのプッシュ型の情報提供に繋がっているというところもあるので、非常に大きい効果かなと捉えている。

(委員)

ミライカナエル活動サポート事業採択コース、団体さんと学生さんとの交流会があったということだが、来年度以降、ミライカナエル活動サポート事業でこの学生さんと交流したことが狙いというか。学生さんにも広くミライカナエル活動にも参加してもらおうということも含まれていると思いながら聞いていて、大人、社会人ばかりではなくて、学生さんにも積極的にこの活動に参画してもらうことによって、もっと盛り上げていこうという意図もあるのかなと思うが、学生さんは、ファシリテーターをやって、交流会、情報交換会やった結果、何かしらの学生さんからフィードバック、こういうふうに感じてますよ、こういうふうにやっていきたいですよ、みたいな開催後のアンケート、意見はあったか。

(事務局)

ミライカナエル活動サポート事業の交流会も今回初めての取り組みとして学生さんにご参加をいただいたということで、今の委員がおっしゃってくださったように、若い方々が交流会の場にいらしていただくと。採択団体の議論が活発になる、すごく刺激を受けるということがあり、実際学生さんはこの交流会を通じて市民活動団体というのが、この藤沢市内でいろいろ広域的な活動していると知り、具体的に活動を知ることができたと、その理解が深まったなど、団体さんご自身たちの活動を紹介をする時間があつたが、こういった課題がありますといった話もあり、活動を継続する、持続可能な活動をしていくときの難しさを知ることができたなど。また、身近になったこととしてその活動を続ける大変さ、様々なジャンルの取り組みをしているといったものを実際にやっている方の言葉、肌感覚などそういったことも通して、実際交流しながら知ることができたというのが、学生さんたちの学びに繋がったとアンケートなどでもお答えをいただいている。

学生さんたちとしては市民活動団体の現状、課題を学ぶといった機会になって、かつまた司会進行、ファシリテーションといった実践的な役割を担う、そういう貴重な経験にもなり、団体さん側にとっては若い世代の視点、進歩によって対話に刺激が生まれたといった双方にとっていいことがあつたと考えている。

(委員)

わくわく感も得られながらも厳しさもわかっていただいたような非常にいい会だったということ。

(委員)

自治会・町内会に向けた取り組みで自治会員限定のコンテンツの創出とあり、申し込みも多くて参加も多かった。創出とあるので初めての試みなのか、それとも過去からやっているのか。アイデア出しというのはどういう形でしているのか伺えたらと思う。

(事務局)

令和7年度当初に藤沢自治会・町内会支援戦略ということで記者発表し、取り組み方針としまして負担軽減、魅力アップ、周知啓発という三本柱で、自治会の方を手助けしていこうということになった。魅力アップというところの中で湘南キャンドルの着火体験を市民推進課の職員のアイデア出しで行っている。

(委員)

職員の方々のアイデアっていうのは素敵だと思った。

(委員)

本庁もデジタルサイネージとかやっているのは知っているが、以前市民センターでもロビーにモニターがあり、デジタルサイネージのようなことをやっていたが、今はなく、どういう経緯でなくなってしまったのかわからないが、やはり基本が本庁になってしまっていて、本庁にいらっしゃる方は目に触れると思うが、それ以外の、北から南まで本庁に來れない方に関しては一切こういうものを目にするのがないので、ぜひ市民センターにデジタルサイネージを流していただければなと思った。

委員からもあったが、江の島のことに関して、地区の総会が5月にあるので、自治会長さんたちが49人集まるので、そこでこれがどれだけ魅力があるものかということをお聞きしたいと思う。うちの地区からも参加した方がいるみたいだが、どうやって自治会町内会離れが収まるのかということは実際現場にいる者としてみたら、これがあったからといって自治会の退会は止まるっていうのはちょっと微妙かなと思う。

自治会・町内会からのリーフレットを拝見してすごくよくできているが、これを地区でも、いろんな地区のそれぞれの自治会町内会は推薦したいとか、ここをちょっと押ししたいっていうものを自由に入れられるフリーフォームみたいなのがあったらいいとお願いしたが、できればそういうものをいただけるとありがたいと思う。

市民の家の利用に関して利便性の向上ということで、Wi-Fiがないのでワーキングスペースにもならない。市民の声としてぜひあげたいと思う。

(事務局)

市民センターのロビー等におけるデジタルサイネージについて、現状市民センターにモニターがないというのは承知をしているところですが、現在こういう状況、管理体制のこともあり、すぐに改善は難しいところもあるが、現在動画サイト、YouTubeなどを活用して、情報伝達を進めて、より多くの方に動画で普及を図っていければと考えているので、ご理解をいただければと思う。

(事務局)

自治会・町内会の魅力アップというところで、江の島関係でいろいろ事業を興し、これがあつたら退会が止められるというご意見をいただいたが、何もやらないよりは、というところもあるので、いろんな試みを行いながら一つでも自治会の加入に繋がるような施策を行っていきたいと思っている。リーフレットの件については、確認して自由にご活用できるように検討していきたいと思う。

市民の家の利便性向上、Wi-Fiのことだが、問い合わせはいただいているが、予算等の限りがあるので、現段階では行っていない現状である。

(事務局)

魅力アップのコンテンツの話だが、基本的には今、事務局からお話しするように、これで特効薬になるというような形ではないというのは事実だと思っている。その中で自治会・町内会さんでも、お祭りなど、タッチポイントを作っていたいただいて、触れ合う機会を作っていたらと思うが、市でもそのステークホルダーの方いくつかあるので、そういったところで協働ができるということで、今回こういう形をとらせていただいている。数字ベースでお話をさせていただくと、実際参加された方にその後にアンケートをとったが、自治会・町内会のこういうのがあるんだよっていうふうに、他の方に紹介をしたいかというような設問については、7割・8割ぐらいの方ができる、したいとお答えいただいているのと、それから湘南の宝石の点灯体験は今回二回目になるが、一回目のお申し込みの倍率状況が3、4倍ぐらいだったが、今回6、7倍近くになっているので、知っていただき、じわじわ他の方に口コミで教えていただくということになれば、それはそれで一つの成果と思っている。これが全てではないので、いろんな取り組みを今後も市としてしっかり考え、コンテンツを増やしていきたいなと考えている。

(委員)

私自身は湘南の宝石の点灯体験というのは面白い試みだなと思ったし、江の島という資源を使うという意味でもいいと思う。また、新しく入ってきた人たちも、関わりたいと思えば、加入率に繋がるのではないかと最初の第一歩としては、個人として、私は歓迎した。面白い試みだと思うし、藤沢はやはり江の島という資源があるわけだから、その資源を大いに使うという意味でも、私はいいと感じる。苦勞している現場の方とは、また違う言い方になってしまうが、いいと思う。

3の資料に関して、やはり活動内容がわからない。昨年度一生懸命いろんな媒体を使って、PRしていただいたが、その結果は新しい年度に効果が出るのではないかと期待している。まだ知らない活動の内容がわからない、情報をもっと発信してほしいところの数字が多い。面白いと思ったのは、3番目で市民活動団体に期待することは、行政では行えない柔軟なサービスを提供してほしいというのが令和6年度で急に半減している。半減したのが、もしかするとその一番・二番の理由として受け入れられたのかなという形だった。市民はまず何を重要視しているのかと言えば、期待しているのは行政で行えない柔軟なサービス以上に、もっと情報を発信してほしい、提供してほしいというところなのかなど。どう理解しているのか。この基本計画をいろいろしているが、現場としては自分たちの活動だけで精いっぱい、なかなか理解が及ばないところがあるが、もっと情報発信してほしいと思う反面、すぐ一顧なんかを利用している保護者の皆様は、あまりにも情報が多すぎて見るのが面倒になってきたという贅沢な悩みをおっしゃってる方もいる。ピンポイントに情報を届けることが非常に大切なことだと思った。

(事務局)

情報発信というのはすごく大事なことで、すごくいいことをやっても伝わらないとその効果も半減するということになるので、そういったところには力を入れていきたいと思う。その中でどういうコンテンツチャンネルにどういう方に対して、フックするような情報を出していくかということが非常に大事だと考えているので、適したチャンネルで適した情報を適宜発信して行きたいと思う。日々研究しながらやっていきたいと考えている。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

## 議題(2) 令和8年度市民活動推進施策の実施計画について

○事務局から、令和8年度市民活動推進施策の実施計画について説明が行われた。

○委員から令和8年度取り組みについて説明が行われた。

(委員)

自治会・町内会運営の件、チームFUJISAWA2020の関係だが、疲弊している町内会・自治会に対して2020のボランティアが自治会・町内会に何かしら絡めるというのはルール上どうなのか。

(事務局)

ルール上大丈夫。先ほどの登録団体として自治会が登録していただいて、そのボランティアのやる内容とか日程を周知いただければ、プッシュ面として登録者の方には情報がいきますので、そこから申し込むことができる。今年度自治会の登録があり、内容的にはお祭りの補助みたいなどころがあり、チームFUJISAWAとして周知して流したケースもある。大丈夫な話。

(委員)

実際、その疲弊しているという単語は結構きついなという気がして、疲弊してるんだっからボランティアの方を、結局そのポイントも貯まるわけですし、何かリンクできそうだなと思った。

自治会・町内会の運営自体にボランティアの方が参加する、参画するという点についてはルール上は特に問題ない。そこはボランティアの方たちに疲弊してる方がいるので、ぜひみたいな話はできるということですね。

(委員)

1 ページ目のところ。12月に企画政策課さんがやられているSDGs協働パートナーの交流会に出たが、いいコンテンツだなと、紹介というか、感謝状を市長が渡すというイベントがあり、地域のお仕事ガイドブックDX藤沢版という副教材、デジタル教材を探究の授業で高校生・中学生・小学生でやっている話があるが、その中で静雲堂さんというところが、それをデジタルの副教材を作って、お仕事のキャリアプランとして、こういうお仕事がありますよと、学生の頃から知ってもらいたい意味合いで教材が作られてる。各地域の仕事だと江ノ電さんとか、地元の企業さんのお仕事を動画などで紹介しているが、藤沢市が作ってもらっていて、感謝状が渡された仕組みがすごい良いと思った。学校の授業でやる時に副教材があると使えると思った。それは仕事ではなく、市民活動団体というところで置き換えればできるのかなと思ったが、ただ問題としては、静雲堂さんの場合は各企業からお金をもらってコンテンツ作っているんで、大きな企業さんだったらお金払えるのでみんながWin-Winになるかな。お仕事をし、将来的にはその会社の方に企業として入ってもらいたいという思いがあるのでお金を払っているが、そこをお金を払わないで、そういうコンテンツができれば事業とかする時に副教材として市が認めた副教材として使えれば、この事業がやりやすくなると思った。

(事務局)

静雲堂様のデジタル副教材については承知している。

私どもでそれを踏まえてではないが、市民活動版というような形で学校の児童さん生徒さんに向けて、市民活動の普及啓発を進めていくわけですが、こちらにつきましては学校さんによっていろいろな事情もタイミングもあれば時間数ですとか生徒数とかいろいろな制約があるので、まず提案をさせていただいて学校さんと協議をする中でより最適な方法をベストマッチを見つけて、児童さん生徒さんに向けた普及啓発を進めていきたいと考えて取り組んでまいります。

(委員)

デジタル教材、とても素敵なことだと思うし、デジタル教材の良さはどこでも同じ情報が共有できるというメリットがあると思う。ただ各学校さんによっては、やはり郷土を知

る、地元を知るということも非常に大事なので、できたら地元を知るような活動をしている団体さんが対面で授業ができるような、そうすることによって地元を支えている顔が見える、地元のことも知ることができる、そして地元で身近に活動している人と、大人とふれあいができるということで、郷土を知るといような活動をされている団体さんとコラボしていただくと非常にいいと思う。そうすることで郷土を知る、各学年によってのテーマ設定もあるが、それと市民活動を両方知ることができるのでわりと効率がいいのではないかと思った。

(事務局)

もちろん学校さんのご意向が一番だとは思いますが、ご意向を踏まえてより良い形を、授業をつくりあげていければと思っているので、今のご意見につきましても参考とさせていただいて、より良いものに繋げてまいりたいと考えている。

(委員)

全体的なことになるが、1ページ目で、試験的に、サポーター3件の応募があったこともわかった。3ページ目で、チームFUJISAWAとの連携で自治体のお祭りサポートもあった。活動の計画の取組が出たというところだが、その中で具体的に進めていくためには、成功事例をたくさん見える形で共有することが一番アクションに繋がると思うので、デジタルサイネージや、いろんな形、交流会で直接お話いただくということで、こんな例があるよとどんどん繋げていただくのが一番早いかと思う。それを市民向けもそうだが、基本政策の取り組みのところでも職員の方に協働事例の良いところをカジュアルに聞いて共有に努められるというのはとてもいいなと思う。予算が急に減ってしまったとショックがあったので、部の職員の中でも市役所の中での価値の共有や取り組みの共有もとても大事だと思うし、市民レベルでの成功事例の共有というところの両方の面で、せっかくある宝をきちんと大事にしてみんなで共有をするということを全体を通してお願いできればと思う。

(事務局)

私どもも、こういう事業をやっていくというアナウンスだけではなくて、こういうことをやってきたんだというところのアナウンスも大事にして、そういう視点で、先ほども申し上げたようなアウトリーチに努めてまいりたいと考えている。

(委員)

2-①のところでは3年後の成果指標の設定を促して、伴走支援をするというところ、伴走支援をするのは誰がやるのか伺いたい。応募時に、この事業でどういう成果が生まれるんだと提案をしていただく形になっているが、それは3年後ぐらいのことを考えてではなかったか明確にしておきたい。

(事務局)

ミライカナエル活動サポート事業のリニューアルの中の一つとして指標の設定があったわけですが、この伴走支援については今想定しているのは、スタート支援コース、ステップアップ支援コースについては伴走支援講座などもやりますので、それで伴走支援のどの方がやっていただくことになるかは、まだ今後のことになりましても伴走支援講座や相談会をしていただく方々、もちろん事務局もサポートに入りますけれども、直接的にはメインとなっていていただくのはおそらくその講師の方々になる。

協働コースに関しましては、協働コーディネーターの方々も伴走支援として目標の設定などについてもアドバイスをいただくようお願いするとしている。

指標の設定は、スタート支援コース、ステップアップ支援コース、協働コースそれぞれありますが、スタート支援コースと協働コースでは違うところがあるので、申請書にどこまで書いていただくかというのはコースで違うものにして考えていて、スタート支援コース、ステップアップ支援コースに関しては申請の段階で3年後に目指す姿としての目標というのは立てていただく。これは今も3年後の未来はどうありたいですかということを立ててはいただいているが、そこに数値まで加味した形で立てていただき、事業を走り、最後に事業報告で、アウトプットではなくて、アウトカム指標というものも団体様ご自身でどういうアウトカム指標を設定していくか考えていただいて、それを事業報告にも記載をしたいと思っている。

協働コースにつきましては、目標設定の3年後に目指す姿、アウトプット事業、提案事業の中でのアウトプット指標にとどまらず、アウトカム指標につきましても申請時の段階で記載をいただこうと思っている。ただ、アウトカム設定などについては、社会への還元、地域社会への還元というのは意識をしていただきたいとのことで設定をしていただくわけだが、団体自らのモチベーションや意識付けに繋がるものとしての設定を考えている、設定した成果に対して80%しか達成できなかったから補助金を80%にカットとするとか、そういうことは考えているものではないということは申し添えさせていただく。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

### 議題(3) その他

- 欠席の委員長から、令和7年度最後の委員会としてのメッセージが代読された。
- 委員から、委員任期満了による退任のあいさつがあった。
- 市民自治推進課長から、委員任期最後の委員会ということで、委員へのお礼が述べられた。
- 委員から、市民活動支援施設の事業(大交流会)について案内があった。

